

まえがき

この本を手にとつてくださった方々、本当にありがとうございます。そして、この本を書くにあたり多くの方々のご協力をいただき心より感謝申し上げます。

この本は、私が息子2人、娘2人の子育てをしながら、35年間塾の講師をし、多くのお子さんたちと保護者の方々と接することにより、たくさん経験させていただいたこと、この本に記述したことを子育て期間中に知っていたらとてもよかったのということを書かせていただきました。実際に、私の家族の中で長女が生死にかかわる血液疾患に罹患し、2回の骨髄移植を受けました。それとともに息子が中学校、高校の在学期間に不登校になり、家族が暗闇の中を歩かなければならない状態になった経験もしました。夫はそのころ、単身赴任が続き家庭の中は大変な状況になっていました。

しかし、その当時の私の救いは、かわいい塾生である子供たちと一緒に学び、それぞれの持つている問題を分かち合うことで、有意義な時を過ごさせていただきました。共に過ごせたみなさまに

心から感謝しています。

この本を手にしてくださる方の中には、さまざまな人生の喜びや困難に遭遇している方もいらっしゃるかもしれません。その中にも心をとめてひと息つけるところがあるかもしれません。子供を育て上げるだけでも大変なことなのに、生死をさまよう子供がいたり、不登校の子供がいたり、単身赴任を続ける夫がいたりするなかで、親として母としてさらに妻としての役目を果たして生活していくことは並大抵のことではありません。多くの方の心の支えがあったり、いつも倒れそうな私に寄り添ってくれる友達がいたりして、今まで忍耐とは何かも知らなかった私が生きてこられたのは、周りの方々の励ましと思いやりがあつたからではないかと思えます。

この本を書くにあたって、私自身の持つ多くの弱点と悩みをみなさまと共有できたらいいなあと思います。長い長い楽しくて悩み多い子育ての旅での経験を共に分かち合いましょ。

家を購入後、長男が幼稚園に入學し、仲間外れにあい、どうしたらよいかと考えているとき、自分の子育てのやり方にぶつかりました。子供をいい子にしたいあまりに、みんなと仲良くして、いじわるをしたり、殴ったりしては絶対いけないと教えてきましたので、子供の社会デビューは大変

なことだったと思います。人と付き合うスキルを教えていなかったからです。子供に人格を育てるためのことやコミュニケーションスキルを教えず世の中に出してしまったことに母親としての未熟さを痛感しました。

本書は、大人として子供にできることはないかを親の立場、子供の立場に立ちながら、多くの方たちの成功談を書かせていただきました。本書の内容には、子供たちの生活のスタイル、家庭生活、子供たちの夢の育て方、ベトナムでのボランティア活動を通して学んだこと、子供の将来について述べています。多くの方たちのさまざまな経験談を伺いながら、私もこうすればよかったのだということをたくさん学ばせていただきました。読んでくださった方が少しでも子育てのヒントを得て、気持ちを楽しんでくださればうれしく思います。

子供を育てること、共に時間を共有する親や講師として成長の機会にあずかれることは、大きな喜びと幸福な気持ちを持つことで胸が熱くなります。私たちがより充実した親子関係と師弟関係を築き上げていく助けになることができればうれしく思います。